

あいむ柏崎

— ひとひと 女と男 共につくる希望の未来 —

令和7(2025)年3月5日

第12号

発行 | かしわざき
男女共同参画推進市民会議

寄稿

「第二子の育児休業体験記」

柏陽鋼機株式会社 CAD管理課 課長 星野 拓人 さん



2024年に第二子となる次女が誕生し、2カ月間育児休業を取得しました。第一子の時は妻の実家でお世話になりましたので、私は育児休業を取得しませんでした。第二子は自宅で一緒に育児をしたいと思い妻と相談していたところ、母子手帳の発行手続きのため妻と元気館を訪れた際に、男性の育児休業について説明を受けました。柏崎市が男性の育児休業について奨励金を交付していること、各種方面の相談対応をしてくれる環境があることなどを教えていただき、それが今回の育児休業取得の後押しとなりました。実際に産後パパ育休と育児休業制度をどう利用するかなど柏崎市の窓口で相談し、大変参考になりました。



育児休業を取得するにあたり、会社には早い段階で相談し、理解を求めました。自分が抜けた後の仕事をどう引き継ぐのかなど課題はありましたが、一つ一つ周囲に相談し理解を求めることで、無事に育児休業を取ることができました。“育児休業を取りたいけど職場のことを考えると迷惑を掛けて取りにくい”と思う気持ちもあるかと思いますが、まずは会社や上司など周囲に相談してみてください。皆さん立場や状況に違いはあると思いますが、しっかりと準備することで周りは応援してくれると思います。

今回の育児休業取得でよかったなと感じたことは、長女と母親の時間を持たせてあげられたことです。新生児の育児に注力してしまうことで長女の気持ちが不安にならないように、可能な範囲で母親と二人の時間を作ることを心掛けました。保育園から帰宅したときには今日の出来事を話したり、朝の着替えで何を着るかなど、出産前と変わらない親子の過ごし方ができました。そのため、長女は赤ちゃん返りも少なく、妹の面倒を進んでしてくれる立派な優しいお姉ちゃんになりました。子どもの気持ちが安定していたことで親も安心して育児をすることができたと感じています。

最後に、子の成長を間近で見守れることは夫婦のかけがえない大切な時間です。また、産後の精神的に不安定な時期に、妻の相談相手になれるのは一番身近な存在の夫だと実感しています。しっかりとお互いに向き合って話し合うことで、夫婦ともに気持ちが楽になると思います。今は育児休業を分割して取得することもできますので、夫婦で相談して計画的に取得してほしいと思います。子育て世代が家族との大切な時間を過ごせるように、周りも理解し応援してくれる環境になってほしいと願っております。



星野さん御一家

～ぱぱだって～ お父さんと作ろうクリスマスケーキ

令和6年12月7日(土) 午前10時～正午 会場 市民プラザ料理実習室

抽選で決まった父子12組がクリスマスケーキ作りに挑戦です！講師に料理研究家の高橋みどりさん、アシスタントに蓮池豊子さんをお迎えしました。高橋さんからは料理実習室の使い方から始まり、卵の割り方からきめ細かいスポンジケーキを作るコツまで丁寧に教えていただきました。子どもたちは興味津々、お父さん方は子どもたちに気を配りつつもおいしいケーキを作ろうと意欲満々な様子。年々お父さんたちのスキルが上がってきているように感じました。予定時刻を超過しましたが、ケーキは無事に完成です。性別役割分担意識のためか台所に入らないお父さんにきっかけを作ろうと企画した結果、当初から毎回抽選となる人気の講座となっており、今は性別役割分担意識も変わってきました。「いい思い出づくりに」とお子さんが楽しむ様子をスマホで撮影するお父さんの姿には思わず微笑ましいと感じるひとときでありました。

(企画運営委員 押見 操子)



完成しました！

育休応援リーフレット

「子育てはともに未来を育む希望の時間」発行

男性の育児休業取得を応援します！

家事や育児の役割分担、働き方などご家族で考え、話し合ってみてはいかがでしょうか。



※御希望の方(事業所含む)は事務局までお声がけください。
市のホームページからも御覧いただけます。



私たちは柏崎の 「ハッピー・パートナー企業」です



新潟県では、男女が共に働きやすく、仕事と家庭等の両立、女性従業員の育成や登用などに積極的に取り組む企業を「ハッピー・パートナー企業」として支援しています。

柏崎市ホームページ
ハッピー・パートナー
企業募集



「『月曜日、会社に来るのが楽しみな会社』にしたい」

柏陽鋼機株式会社 藤井1497

柏崎で創業(since1946)し現在に至るまで、鉄を通じて社会に「必要とされる会社、必要とされる人づくり」を基本姿勢に歩んで参りました。時代が変わり環境が変わっても、社会に求められている限り企業は成長できます。その必要とされる根本は人づくりであり社員の活躍に他なりません。業態の変化とともに業務内容も多様性が求められ、社員一人一人のユーティリティ性とコミュニケーション力が、活躍するためのエネルギー源にもなってくるはずで。

社員の活躍によって存在承認が生まれて、お客様からも社内の仲間からも自身が肯定されることで、承認欲求が満たされ仕事の遣り甲斐も必然的に高まることとなります。言葉で表すのは簡単ではありますが、月曜日に社員が出社するのが楽しみと思える会社になりたい、社員満足が高まることでそれが可能になるはずで。

その一環として、健康経営にも取り組み、2022・2023年にはブライト500(健康経営優良法人:中小規模法人部門の上位500社)の認定を受けました。活躍の源は「健全なる精神は健全なる身体に宿る」の如しで、健やかな心身がベースにあってこそ、社員の幸福が実現できると確信しています。



代表取締役社長
佐藤 二昭さん



ブライト500認定
(2022年・2023年)

「今、働いている人たちにとって働きやすい職場環境を整える」

特定非営利活動法人 a i s a 東本町2-7-42

a i s aでは、二足のわらじで働く人、子育て真っ盛りの人、短時間で働きたい人など、多様なバックグラウンドを持つ人材が活躍しています。社員一人ひとりのライフプランに合わせた働き方をサポートするため、シフト制の時間帯の選択肢を増やしたり、在宅ワーク制度を導入するなど、柔軟な働き方を実現しています。年に一度の理事長面談を通じて、社員の声を直接聞き、より良い職場環境づくりに努めています。

また、相談しやすい関係性づくりのため、LINEを活用した日々のコミュニケーション、オフィスの雰囲気づくりや適度な声掛けを行っています。休みやすい環境をつくるため、業務管理においてはデジタルツールを導入し、タスクの見える化等を行っています。

近年では、職場や家庭、地域における男女の役割分担が変化しています。価値観も年代も時間の使い方も異なる多様な人たちと共に働くことは、固定概念を外すこと、対話をすることから始まると思います。

私たちはワーク・ライフ・バランスだけではなく、「ワーク・ライフ・インテグレーション」「ワーク・ライフ・マネジメント」という考え方も取り入れながら、一人ひとりがより働きやすく、生活を豊かにできる職場環境を整え、だれもが生きやすい社会になるよう推進していきます。



a i s aの皆さん

千人針

戦後80年となる令和7年（2025年）。当館で所蔵する戦争関係資料の中に千人針があります。主に女性たちの手によってつくられたものです。弾除けの御守りとして出征兵士に贈られ、兵士は腹に巻いたり帽子に縫いつけたりして身につけました。

赤い糸の玉留めには「弾を止める」「魂をとめる」、返し縫いには「無事に還る」の意味が込められています。虎の絵を刺繍や墨書で描いたものは、虎は「千里を行き、千里を帰る」という言い伝えにあやかっただけで、寅年生まれの女性は自分の年齢の数だけ玉留めをつくったといひます。また、硬貨が縫い込まれたものもあり、五銭硬貨には死線（しせん＝四銭）を超える、十銭硬貨には苦戦（くせん＝九銭）を超えるという意味



千人針
（玉留め・「力」の文字の寄せ書き・五銭硬貨）
柏崎市立博物館蔵

が込められています。どれも兵士の生還を祈るもので、一枚の布が弾除けになると信じるしかなかった人々の思いがにじんで見えます。

当館では、常設展示に戦争のコーナーを設け、毎年夏にはロビー展示も開催しています。戦争をテーマにした展示はどこも似ていて、毎回同じような資料がならぶと思われる方もいるかもしれませんが、しかし、同じことの繰り返しでも続けていくこと、伝えていくことに意味があると私は思うのです。耳を傾けさえすれば、残された資料は歴史を語ってくれるのです。

（協力／柏崎市立博物館 早川 美奈子さん）

会員募集！

かしわざき男女共同参画推進市民会議

女性も男性も生き生きと輝く社会を目指して、一緒に活動して下さる方、支援して下さる方を募集！

活動内容

- ・学習会・研修会（労働、人権、まちづくりなど）
- ・イベント（子育て支援、父親の家事・育児など）
- ・啓発事業（公開講演会など）
- ・広報紙発行（あいむ柏崎／年2回）

年会費／1,000円（個人会員）
3,000円（法人・団体会員）

<問い合わせ（申込）先>

事務局：柏崎市総合企画部
人権啓発・男女共同参画室
〒945-8511 柏崎市日石町2番1号
TEL 0257-20-7605 FAX 0257-22-5904
Eメール: danjo@city.kashiwazaki.lg.jp



あいむ柏崎 第12号 令和7（2025）年3月5日発行

あとがき

昨年の『わたしの主張 柏崎・刈羽地区大会』で奨励賞を受賞された西山中3年廣川さんの「無意識な偏見」と題された発表の中に、“アンコンシャス・バイアスはなくすものではなく「気づく」もの…”との一文がありました。“誰かが傷ついていることに気づくことが大切”と続きます。中学生が真剣に“無意識の偏見”について向き合っていることを知り、とても嬉しくなりました。

新たに『育休応援リーフレット』ができました。無意識の偏見に気づききっかけになればと思います。（T.I）



こちらからご覧いただけます

— 柏崎市ホームページ —

市民会議
会員募集



あいむ柏崎
バックナンバー

